



小垣は集落ぐるみで行事を伝承しているため、集会所で神事や餅作りを行う



口開祭
(11月1日)
当元宅で「オハケ」と呼ばれる竹を使った依り代を立て、神事を行います。八講祭の始まりの行事。

餅を「いどる」だけじゃない
鵜川「八講祭」の
伝統を守る男たち

11月7日に鵜川・菅原神社で行われる県指定無形民俗文化財「鵜川のイドリ祭り」。「いどる」とは「けなす・非難する」という意味で、餅を口々にユーモアを交えてけなし合い、翌年の豊作を願います。しかし、このシーンは「八講祭」という五穀豊穡の感謝を表す祭り日程の一部です。八講祭は11月1日から8日までの長きにわたります。今年は小垣の「脇名」と鵜川の「黒御子名」が、当番である「当元」をつとめます。伝統行事を後世に残すため奮闘する、両名主の姿を追いました。

集落の人が集まって米を洗う【小垣・脇名】



洗った米は餅の種類ごとに分けて置いておく【鵜川・黒御子名】



餅米漬け (11月3日)
集落で集めた米を洗い、水に浸して準備します。祭りで使う餅を作るために、4斗(1俵、約60キログラム)の米が必要です。



(写真右) 各家から持ち寄った蒸し器
(左) 杵を振るう川上政行区長
(下) 当番が餅を広げて成形する【小垣】



大鏡餅づくりのため、親戚が一堂に集った。先代伝兵衛・鎌次郎さん(左)が作業を見守る。【鵜川】

餅つき (11月5日)
もち米を蒸して、餅をつきます。米を7升5合使う「大鏡餅」のほかに「小餅」やお供えの「とうし餅」など、数多くの餅を作らなければなりません。



今年の収穫に感謝し、来年の豊作に期待込める

鵜川のイドリ祭り



前夜祭（11月6日）

菅原神社社務所を当元が訪問し、宮司の接待を受けます。八講祭は男子だけで行うしきたりがあるため、給仕も菅原神社の梅田真人宮司が務めます。

続いて神社で明日の祭りの成功を願い、玉ぐしをささげます。



菅原神社での前夜祭



社務所で接待を受ける4人の当元

七度半の使い

夕方、当元が主賓である伝兵衛の自宅を訪ねます。その回数は実に7回。最後の使者が家を出たあと、伝兵衛はようやく袴を身につけて自宅を出発し、菅原神社の前で8回目の使者と出会います。この「七度半の使い」の風習からも、伝兵衛が地域の重要人物であったことがわかります。



（写真左）使者の応対にあたる伝兵衛
（下）お供と一緒に菅原神社に向けて出発

小餅拝見

伝兵衛が神社に到着すると神事が始まります。給仕が各名主の前に御膳を運びます。茶碗には直径10センチほどの小餅が重ねて載せられていて、まず小餅の出来栄について口々にいどります。



大祭（11月7日）

午後、餅が神社に到着。竹竿に餅をくくりつけて担ぎ、触れ太鼓を先頭に参道を進みます。拝殿に運び入れた餅は神前に置かれ、祭りの時を待ちます。



餅を搬入した後、当元は御幣を持ち、菅原神社を出発。宮司を先頭に桜木神社へ向かいます。言い伝えでは祭神が浜にホンダワラに乗って漂着したとされているので、その神が最初に鎮座した地が桜木神社です。



当渡し・大鏡餅拝見

来年の当元を谷屋村の名主が読み上げる「当渡し」に続き、いよいよ大鏡餅が登場。来年の当元は今年の当元の餅に対し、「こんなみつともない餅は持ち帰られない」などと言番になることを拒否し、いどります。最後は宮司が仲裁し、餅を納めさせ、御神酒をいただ



（写真上）大鏡餅を立てる
（右）大鏡餅を持ち帰る来年の当元



来年の当元を読み上げる

オハケ倒し

（11月8日）

今年の当元をつとめた2カ所、祭りを終える神事が行われます。依り代である「オハケ」に宿っていた神様を昇神させ、その竹を倒します。倒したオハケは川や海に流し、八講祭はようやく終わりを迎えます。



神事を行い、無事に祭りを終えたことに感謝を表す【鵜川】

菅原神社と

祭りを支える

12の名主

鵜川・菅原神社の祭神は、正暦年中（西暦990年～994年）に海岸に漂着して桜木神社にまつられ、享祿年中（1528年～1532年）に現在地に鎮座したと言われている。移転に尽力したのが時の有力者であった「伝兵衛」だったと考えられていて、祭りの主賓として迎えられています。

鵜川周辺・穴水町の一部を含む「諸橋郷」に多くの氏子がいるので、「いどり祭り」はその6カ村の12の名主が参加して行われ



菅原神社の扁額には「諸橋郷総社」の文字がある

ています。「当元」は、2名1組で毎年交代し、6年で一巡します。名主の中には、祭りの主賓である伝兵衛「黒御子名」も含まれています。黒御子名は今年、当元をつとめる必要もあり、多忙を極めました。



「オハケ」が立てられている伝兵衛こと廣田豊さん宅

いどり祭りの当元

- | | |
|------------|------------|
| ① 鵜川村 黒御子名 | ④ 七見村 赤名 |
| ② 小垣村 脇名 | ⑤ 小垣村 横山名 |
| ③ 谷屋村 江ノ口名 | ⑥ 太田川村 宮田名 |
| ⑦ 七見村 菅沢名 | ⑧ 竹原村 宇賀名 |
| ⑨ 小垣村 江ノ脇名 | ⑩ 竹原村 榎木名 |
| ⑪ 谷屋村 坂尻名 | ⑫ 太田川村 羽田名 |

丸囲み数字は当番順。地名の表記は現在のもの。竹原村・太田川村は現・穴水町



集落の団結強めて

行事を伝承する

小垣区長 川上政行さん

小垣は集落の26軒が団結・協力して餅作りをしています。かつては当番となった班だけで餅を作っていました。が、勤めの忙しさや女性だけの世帯が出てくるなど、祭りを続けていくことが困難であると感じていました。いどり祭りは日本にたった一つの祭りです。未永く祭りを続けていけるよう、集落で餅作りを行っています。

区長をつとめて7年目になります。日ごろのつながりがあるから集落がまとまって祭りができます。結束が強く、他の集落にはまねができないという自負があります。これからも集落で行事を伝承し続けていきたいと思っています。

祭りができることに感謝

伝兵衛こと 廣田豊さん

父から引き継いで、3回目の祭を無事に終えました。今年は餅を作る当親もあたり慌ただしかったです。無事祭りが終わり、肩の荷が下りました。当番の年は作付けた餅米の出来が気になります。準備の段取りは父母がしてくれるので、家族の支えは大きいです。父は直接口にしません。が、叔父からは「昔は米を作ることも食することも大変だったから、どんなにきれいな餅でもいどらなければならぬ」と聞かされてきました。当元の名主はもちろろん、裏方からいどりの言葉が聞こえ、にぎやかな祭りができることに感謝しています。伝統の祭りをやる訳にはいきません。これからも続けていきたいと思っています。

